増補

歌枕秋の寝さめ

江沼澤池
堤井水湯

七

911.1
ウ
7

○江
海にも川にもあり　入江　塩ー　水ーー
みさびー（白上八重）　ふるー　しほの入ー　みさびゐる入ー（沼の）
葉の入ー　こやー　・古ー（稲）（しま）　（柏）沼乃　・次の入ー　・みさご（秋冬）
かる入ー　・入ーの女　・秋の入ー（秋六）　・あさみかさく入ー（方）
（建）・入ーのすけ　・濱ー　・ーゆくえかる　・やど入ー（宝）　・漕きー（月）
（月）・水際ーー　・入ーの松（続古）　・あさかすみー（新）　・入ーの山（新）　・蕾ー（月）
・なられー　・細ー　・入ーの菱　入ーの舟ても　・入ーの
おやの・入ーのすまゐ　入ーの苫　入ーの芦
・入ーの月　・入ーのあら　・ほかえにてそあのまれ
・えふしあれく　・ふるえー　・あさえー　江の緑
よよせく惣雑の部に多く有り

遠江 いなさほそ江　うれつのとし　雁　千鳥　志ぎ

澪標

・あまたゝいなさ細江のみをつくし深き志るしもなくて有りける

摂津 ほり江　雛さしも　蛙　かやかや・五月雨・蛍

・月・霜　鴨　都鳥　芦　流こも　こもり江

舟　松浦舟　うきかゝさ　ほらぬ

橋　のし

古今 堀江こぐたなゝし小舟こぎかへり同じ人にや恋ひわたりなん

多和示江とわり

ほそ江　住よみし　・月・霜・氷　海人舟

芦　うき波はくし

住よしの細江にさすみをつくし深きにまけぬ人はあらじな

紀伊 ちゝの江　浦

万代 [illegible]棹音とおりちくの江乃[illegible]

美濃 ぬまの入江　五月雨　松　秋　はくし　岸

新葉 こもりくのぬまの入江の藻の花を[illegible]

伊勢 小野 その古江　いせの海わし・うたかたの　いせ海

あれ芦・月・松　濡　有り

続古今 [illegible]いせの海の小野の古江の秋のくれ[illegible]

摂津 ひとつの入江　水鳥　浦・都鳥

汐風[illegible]の松よ[illegible]入江[illegible]月

紀伊 若浦 わかの浦入江　あやめ　芦　鶴

玉葉
人ならぬ君をうらみていその浦乃入江のすゑは猶たのむとも　俊成女

備前　可思布
かしふ江　万十九
かしふ江よたつ鳴わたる志かの浦よ沖つ志ら波立志くらしも　家持

赤穂　片別
・かたをかの江　古今
苫屋よく塩風寒く衣うつ入江はうらのあらいその村鳥

山城　淀
よど川の入江　跡　新勅　あり　川　月　里　月　波　月

名所
淀川乃入江の岸の柳かげつなぎもとめぬ舟ぞふく里乃子　慈鎮

近江　金葉
よしえの入江　海　新勅　あり　浦　月

夫木
出てみるやよこの入江は波されて月より上に春風ぞふく　出羽法師

摂津　玉
〽海江　拾　みしま江の―　千　春浅・霞・五月雨　全　新勅　螢
新　あやめ・藻　波こも・月　月　蘆・あし・吟　松ふかきより
はしかり小舟　こりかり舟

摂津　拾遺
みしま江の入江の蘆をさす舟のさほさしかへりかへりいまこそ　人丸

越前
同　鴨　蘆　螢　ひれかる鳥　蘆・月・千鳥

摂津　拾遺
たちかへり江の芦を踏しけれひれかる鳥乃立さわぎける　源重之

摂津　太刀造
たちつくり江　拾遺
万代と君が住のと神はたちつくり江の岸のまつかぜ　入道前太政大臣

越中　多枯
たこの入江　浦　新勅　あり

名所
・五月雨はふる江の村乃苫やかた軒まで波のかゝるの波　之円

紀伊　玉津嶋
たま波つしま江　入江　新　・霞　続拾

新後古今
玉ぬ波入江漕出る舟は浦ふかみひかねやかくしん　家隆

名所
深みどり玉津しま江の小松原かへりつゝみ千代のかげぞみゆる

丹後　多津細
・たつのほそ江　・舟人

夫木
奥津ほそえの細江乃岸さ波よかさなる松に恨くるか　新後

摂津　津国羅
津の江　一手円江　名所　なにはの―　・霞　螢・蘆　・名所　・雪

芦かり・瀬

あし辺行かものはかひに霜ふりてさむき夕は大和しおもほゆ

はく海川入江　ーの浮江　ーのはしも　・五月雨　東風

・見る・みつ・芦・菱　みをつくし　浮日　神日

・つまこの庭にはあしひきのやまのあらしにこほりてやあらむ

つのくにの　ーの入江　螢・五月雨　千鳥　芦

こんにやくし　あさき波　浦かけ海人

風吹ハ浪やこえしとおもふかなはさの細江よりこくなかれの夜

しかりより浦うちをよするまつ浪

なにはえ　ーあし江・ー入江　難波の入江も　・霰・柳・梅・若菜

・芦月　螢・五月雨・雁　鴨　・芦の枯葉

・月　あまの・霜・氷・雪・千鳥　浜千鳥

しらけ　むかへに埋もれて　芦　ーの　藻・波こも

さうとけ　いさり火　みるとる海人　・鹽汲・すら汲

・うら火・もしほ火　ふね　おろしふて

・芦のまろや　葦鶴　こいち　ふしはくし

・貝・松・こふさのかり　・おしやの里　・小屋の里

・みきのみ堀江　堀江乃川なかも　漕こえのの

浦とも　深　浦日　津日　淀日　瀬日　沖日

浜日　都日　寺日　灘日　里日　川日　宮日　海日　磯日

・難波江のあしのかりねのひとよゆへみをつくしてや恋わたるへき

あし乃浮江　ーも　ー浜　海　浦日　みつきの浜

摂津
万十七長歌 あかものすそ古やまかひもけふもあかりに下略　大伴家持
佐比 さひ江　糯（さひ江の）
新撰 年をへて浮ふ（?）ねさいそなへあもらへて今そうつ（?）き　忠岑
駿河 佐野 守城 はらのさいみなとの江
万九 さきの塩江にあらふいつく舟梶しまずて忘へきかん　玉名
近江 堺 さきの入江　まま　さゝなみやはらの入江に身をつて船入かよふ浪の細舟　家
出雲 美豆 こもれ入合　柳　楓 あり 京極　牧 月・杜 月・川 月・浅 月・里 月
まま 新浅とこもり入江の玉柳めとてみとりもちを波よするなり　家
播磨 三塩 とし浦江　いのまれ 川乃入江・霞 長秋・柳 吟・時鳥 建・月 月・鴨
六条 ・霧 ・氷 経信 ・さし 六条 ・芦 長秋 ・ひし 堀河 ・蛍 ・波こも 万
月 菱・浮 しらたえ 見し浦菱 ・不毛草 ・松 建 ・霧 ・鷺 雪
笠とよろ

月
紀伊 ・鵆のつきさを 新古 ・あまれいさり火　わくらば火・さくら貝 ・まも
雪 ・霞 山 ・見しまの浦 ・千鳥 拾遺 ・珍 あり 京極 ・川
越中 三坂江のまいわかと古老しよりそのころそなへきこう錦 柳葉集 とも
月 ・日 美豆 こもの江 入江 ・牧 あり 京極 ・珍 月 ・浅 月 ・杜 月 ・森 月
未来 ・新浅とこもの入江れ玉柳ぬれてみとりなる波さすなり　家
丹後 水 見にたの江 ・霞 新古 ・ 名月 ・ 蛍 ・月 新古 ・鴨 拾 ・芦 月 ・浪こも 堀河
かもめ ・雛つつ細つり 万 浦めくろ子 ・うつせ貝 名
月 ・結浦 小 あやいろま
播磨 ・あけてくれ何うへ見きん水乃江の浦めの子とおもひやりて　古今
丹後 三鵈 ・みしま江 三百首 信ろ鵈めるふつくいうこの江わるをもなろうるやぬれ　定家
三鵈 玉葉 ・同　わそうらのかまのみのまつまゐらて古浪の浪にふかくあふを　兼好阿仏(?)

播・しかま江　餝磨　かめうけ　今かち　川かみ　浦日　市日　里日

万七しかま江ハ漕出し天つ日月さへ乃くもれは浪さそはゆ

吉備・ひくのかた江　斐太泊　万十二いまらひく比細江よする島わ侍よ忘れやはそらつ

斯中日水・ひゑ乃江　万十七杉田江乃須行く乃しつかうよりはるかの見る

てゐこのしまさひてつくるかしかの上下略

摂・きさの入江　渚沙　一本手鋪　万わかの江し　あやめ　・月　・ぬはら

万・氷　ちとり　みさこ　芦　万わか菖日　こりぬ

風わうき　・わし織　・松日

万十四わかの江をさしの入江乃こあしのあさいさつをしさけひさわて

住・すみの江　細浦も・すまの江　・岸　・柳　ありや　・河　わすれ

万人そかし　・月　・おもかけ・　・ゆゆ　・草　・菊　・玉和

古・岸姫松　・網　・海　・浜の浪さこ　・澪標　云々

・忘貝　・忘草　・難波須合　・霰松原日　浦

岸日　里日　・宮日　・神日　・宮日

古今住の江の松を秋風吹くからに声うちそふる沖つ白波

須磨・すまの入江　しつの　海あま　浦日　須日　関日　跡日

藻塩やく煙の入江よ立ちこめて須の月も行也

○沼

八雲御抄ねまくハ池の堤ゆくれねくも

いうくれねハ豊いくれなきいねまくいふき

水乃さゆかさよ林地ハ池と沼といひかいりは

つよかよいて後の行くし池乃跡よ沼とよし

ぬまの邊は池とおなじやうにて詠んでよしかくし
沼はかくるゝといふとぞ　古今 かくれぬ　五社百首 うきぬ
ぬまみづ　こぬま　沼川　新六 みこもの沼　・こひ 日
ぬなは　・岩かき沼　建 ・沼の岩かき　門 ・菖蒲にかくろふ
沼みづ　・沼の入江　・菰の沼　六帖 ・そよぐね　八雲 ・池の
堤のうへにもなどもいふ　八雲 みくりのうへなる也
板田 いくたの沼　・鴨　おりゐる 宮 日
堀川百首 あさ落く若しほかぜにさへて沼に浪たちかはし 拾遺
上野 石垣 いしかき沼　八雲にはしのぶ沼なくて細くほそく
万 ・まこものし　・かけのみの　堀 杜若　・五月雨 定
拾遺 あやめ　・月 千五百 鶴　松　うきぬ縄　ゝゝぬうへ

月
忘れ草 いはかき沼　月 みこもり
万十 まこものくき くもの花沼はかへるもの忍ぶやいはらん年よりしたるなみ 八九
あやめよりあり
伊香保 いかほの沼　於 いかほのやー　万 いつまれし　堀 東路のー
蛙　蛍　建 あやめ　堀 杜若　建 まこも草　新続 ・五月雨
建 ・うき草　名 水鳥　円 玉藻　新続 浪こも　万 うへてきし
建 いかほなり いし垣
於 いかほのやいかほの沼はいかにして恋しき人を今一目みん 夫木
本すゝによりけり
伊奈良 いならの沼　万 ・いはきのー　・五月雨　万 おはぬ草
夫木 ・みずくぐる石の沼乃おほかた草よりそれや恋ん袖ぬらしける 六帖
月

武蔵 小崎 をさきの沼 ・千 白鳥の ・万 さきたまの ・千 月 鴨

万九 ・さきたまのをさきの沼に鴨そはねきる○をのかをに
ふりおける霜をはらふとにあらし

上野 可保夜 かほやの沼 万 くゝつきの 堀 東路れ 月 かきつはた

かはよ鳥 万 いはゐつら 八雲に云 可保夜とも

うまり仍或はよろしといへり

今案 ・東路のかほやか沼乃杜若きてこそみても忘れはけるる 後鳥羽院[illegible]

摂津 玉江 玉江の沼 千載 夏かりの芦のかりねもあはれなり玉江の沼をあさる白鷺 俊恵法師

大和 玉井 ・たまのゐの沼 良玉 数ならぬ身の[illegible]のあまつ[illegible]かきね さかき[illegible]

近江 詐馬 はくまの沼 ・夫木 つくま江乃沼も 夫木 あやめ ・堀 五月雨 ・夫木 こもり 新[illegible]

江円 ・山円 神円

ねぬなは ・あしねはふうきはうへこそつれなけれしたはえならぬおもひなりけり 為信朝臣

摂津 長等 ながらの沼 夫木 [illegible]いさりまへたりけるたかむらのはしのまへかはせにもあひて 公房

陸奥 名取 なとりの沼 夫木 みちのくのなとりの沼乃みくさかてみちならぬ人もしめあはらぬ よみ人しらす

筑前 大浦田沼 一・おほうらさわ 万十六 あさきえのおもふむねよりおほうらのたはねをうちもかくもあかぬ

摂津 浅沢 あさくは沼 正 あやめ ・定 雪 ・冷 氷 千 花かつみ 見えつる 忘れて

信 信吉のかは ・霧 ゆきかは 冷 ねせり 万 杜若

みさひ ・住吉の松 あさみなる 家之 後京極摂政 沢 岸

千載 ・みわたせはあさくは沼の花かつみかつみるまゝにしれとゆくかなる 藤原範仲

武蔵 阿加久須 あかすかれ沼 家集 年をへて人にたえとぞをるかなあかすの沼にはるるもあやめ 慈鎮

陸奥 安積 あさかの沼 八雲に云 あやめ 菖蒲ひくことなかりしにあやめを

ならひけるとて五月かつきとは信ぬかなり

冷 ねのはし

菖蒲 杜若 あやめ ・五月雨 蛍 氷 ・霰
玉藻 鴨 鴫 花かつみ 水清し ・旅人 来鳴る
山 ・石井 ・里

古今
みちのくの浅香の沼の花かつみかつみる人に恋ひやわたらむ よみ人しらず

・浅野 ・えの沼
新古今
をち山の松風さむし大空の沼やさし渡る 中務

○澤

山沢 あさ― ―辺 山― ―田 ・若―
み ・あれ田の― ・雉子かくれ ・まけある― ・石面
なる雉子― ・入江の― ・―のきゝけ ・九川の―
・沢辺の孫せり ・野沢のせり ・沢のすみか

原野
けふの沢 ・五月雨 ・八ちし 続合

家集
尋ねきの沢乃浅緑わかなはよそにあらなり

遠里
こはさし小野沢

友鶴や沢への芦をあさるらんこゝ山中の名も村消

淀
よどの沢 若菜 波こえ ・月 野 鶴 川 江
・雉 ・蛍

古今
波こえか沢の浮の名これはなよりよし波さる我恋

武蔵 田能武
たのむれ沢 ・里 寄名あり
新古今
わするなよたのむれ沢をたつ雁も稲葉の風の秋の夕くれ 摂政太政大臣

夫木 玉影
・たまかけの沢 さやかなる月もさへいとしく光を波さる和歌の沢 よみ人しらす

駿河 鳴
なる沢 八雲ふつのなる沢みなそこのよれたる沢
とらへられて若経ふよりてうつさいとらる 云々

新続
五月雨 月 蛍・月・氷 千載・あふ沢の原・清乃里 後鳥

万古
さわらくいむのをみつゑくへつのさるれたる沢乃つく 云々

瓜生
うつゝの沢 山 寄名あり 野 月 里 月 ・坂 月

新続
うつゝの沢よ住ものを鳥ふをのかよふあつら 小大君

井手
・ゐての沢 川 寄名あり 岩橋 月 浅 月 山田 月 里 月 中道 月

千載
去ふりさき井よの沢のかけそていくへそ見つらん山吹のさる

未勘 野
・野の沢
拾玉
東路や野沢のつきはうすやかに風にもかりてけるかな 慈鎮
拾玉 雨

山城 大田
・おほたの沢
名寄
神山や大田の沢のかきつはた深きたのみは色に見ゆらん 俊成

伏見
ふしみの沢 名寄 鴫 にほ水鳥 山 寄名あり 野 月 里 月 田 月

布留野 新拾遺
・冬の来てさけさ月ひとみてふるの沢よりにほのかよふ 相模法師

摂津
ふるの沢 続拾 若菜 新拾 忘れ水 ふるの沢の ふるのの沢よ
登 寄名あり 山 月 滝 月 都 月 社 月 ・田 月 ・原 月

新拾遺
・ひとつくふるの沢乃忘れ水ともに伴ひて出ぬらん

拾遺 浅
あさ沢 新千 ・住吉のし 月 ・しのぶ 後撰 ・紡せり 新千 ・杜若
蛍 あやめ・菖 続千 花かつみ 新千 見るらん 続千 忘れ水 浅沢をのし

めぐさ 野 寄名あり 沼 月

・(おちこ)はの上に深沢水に影見えて光新月もくもらぬきぬ (はるの光)

駿河 あひ沢 遇

(夫木)こひわたる世にもあひ沢の水ならは絶えぬ人の清なん (古今)

近江 あはつの沢 粟津野 野かつ (夫木)

(夫木)おくはの沢へ乃浪に鳴蛙声乃あまりそふくなるらん (六帖)

陸奥 あたら乃沢 安達 原 (夫木) あり

(夫木)いくら野の御沢のますけ霜にくちいく御結のゆき涛も (六帖)

武蔵 ちちかたの沢 渋谷 八重沢乃内に出行方来路

大和 ゆきけの沢 雪消 (夫木)春日のくし (夫木)(凡)ゆする・小芹・(堀)君・(月)わかくさ

・(凡雅)まへられて君けの沢に袖ぬれて清くうらゆくさみなとぞつぐ (山家法院)

美濃 ・ひろ沢 廣 月そさやけき まつ(ま)みのの夜 (拾玉)水 (六百)(番)春風

(夫木)ひろ沢の池はうつるかへらぬ松風乃浪はさりとも (宇多く)

○池

八重いかといふは水をためたる所也万葉池の水きはとありとよむといふ 池の白波いそくにいそくと

とう 池乃白波 ーのさ波 水の落合とせくし

ー波 (万) 池の鬼 ーの汀 ーのこころ (庭もみ池の志中と云) ーの

さく波 庭のー水 中のー水 ーの玉藻 ーぬ

水きり ・(拾六)あふの坊のいよせくし ・山川の落合を

せくし ・(夫六)おふされのー ・(月)ーのひけはり ・(古)みのひろ

きー ・ひのー ・(後拾古)ーぬ面 ・冬乃ー ・(夫木)霞乃ー

・(万)ーの堤 ・ーの埋水 ・(新六)ー水のすさび ・ー乃水波

・こさひ　・うれ紋?　庭のおもと　しのぶ
しの村?　しのすま　しの鏡
大和 磐余 いはれの池　万 かはてのし　万 鴨・氷　新?ときは　いる
六 つゝみ草　新?　あり
摂津 万三 百つくのいはれの池になく鴨をけふのみ見てや雲隠れなん　万葉?
生田 いくたの池　あやめ・月・氷　日 霜　建 鴛　松　建 玉も
日 芦　新? あり　菊　日 川　日 山　日 里　日 海　日 浦　日
松 ・津の国の生田の池の水草ははしきことに秋をこすらん
伊勢 一志 いちしの池　浦　新? あり
新古今 はるゝ夜の山風吹かはいちしの池にあまる白浪　之?
近江 石根 いはねの池　・石ねのし・山吹・鴨　鶴　いる山　新? あり 村　日

又いもと紋かくして不言色によふり
摂津 鴫野 鴫の池もあかしなきといはいの池のみしきよ　大進
摂津 吉来見 いさみの池　・六宿 さいさみの池に鳥てゆかけるさ　宗之?
大和 垣安 ・いれやまの池　イニ 植安とある文字れ州より
万二 はるやすの池のほとりに来もと世に人は迷ふ　人丸
摂津 原 ・はら乃池　・六 月・霜・氷　みさひ　日 ゆかけ　六 あし
六帖 原の池にはるものかけてめ小君我秋をも待かたにれ
武蔵 谷? そこの池　去來? 冬のうくは池へて鳴いは氷に浮ぬ人あさき　知隆法師?
安芸 新田 ゆめたる乃池　万代 鴨鳥の都乃池に来て鳴らてゆくにるらむよ　宗之
未勘 放 ・そゞろ池　去來 はめそやかその氷もとうとさん新田の池乃ながれ柳　法教?
未勘 細見 ・みそこの池　名寄 あすとは水底の池に生ひに浮きの多く杜とれ

近江 とりこの池 取籠 いつまてか立さはくとも見えてなれとこの池はすまく芦鴨 季経

攝津 とをちの池 十市 山 寄あり 里 同

家隆 今はゝやとをちの池のこゝろにはくもとをしへて人もまつみし

常陸 ぬまをの池 沼尾 真木 ぬまをの池の玉もかり代におもはぬは堤をかけて淋しかる人

武蔵 をさきの池 小埼 千載 をさきの池の秋の月さへ霞をかけて浮ふらん

能登 とさへの池 作 夫木 とさへも人のなつむ堀江かきの池もありぬへけれ

大和 かるの池 迦留 しの池乃入江も 蛍・月・氷・鴨・玉藻 堤 ありその

市 寄あり 杜 同・道 同

万葉 ・かるの池乃入江めくれる鴨すらも玉ものうへにひとりねなくに 紀皇女

同 からくの池 唐 金葉 かゝみのあかり見る宮の岸にしゝつるせてしかる人の池

同 かきつたの池 垣津田 しの池乃つゝみを見よ

万十三 ・神なひの清き見たやのかきつ田の池の堤の百たらす

信乃 かくれの池 隠乃 浮草 埋木 山 寄あり 猿 同 岩 同

家隆 ・浮草のかくれの池の埋木のうけくへて下に月そありける 於九条家四季百首

下総 かつまたの池 勝間田 八雲御抄にかつまたの池は蓮はしたなりと又あれとも万葉にはしらす勝間田の池は水なし

さゝなみ 柳 岸の 花 月 杜若 五月雨 蓮

鴨・霜・雪・氷 鳥の住かにし 鮎 鯉

芦 つまれ菜 堤 しらまて 水なし 水なき池 かり

・ぬなは

万十六 かつまたの池は我しる蓮なししかいふ君かひけなきかことし 婦人

夫木 水なくてかはしかつまたの池あれとしらす五月雨の比 為家

其外水なしと読ろうかまさの池乃名目これと
又何となく池ある所よ読る事もあり

近江 堅田
かたゝ乃池　浦 万葉ニあり

建仁寺名合
とおちかたゝの池よせて水のうちやさしひの鴛れひとり寝 清輔

近江 鏡
かゞみの池・二 夫木抄 近江 花・月 鴛

こさひかゞみの池よ影をしへうつるみかへり影をかへてそひらう 為家

かほ乃池

加賀 摂路
うらの池・一 夫木抄 石見 越前 あやめ 万

あやめ 菰 月

万十二
あやかうらの池よ後より乃立てもめても君をしてそらふ 家持

夫木抄 甲斐 一本那須
・うちわまの池
給かく水かゞみ池うつるこそみさ世にうへさかひわまの池

河内 因可
よ読うの池 一本大和　いろかや 水鳥・氷 祐ね為ハ

いお

万十二
いろ読うのよるかの池のよるいへも君といへ読へそゐる 家持

大和 絶間
かうかま乃池 夫木 鏡のよめる乃池乃柱いろかとかりや読らん 六条院

多能武
かうち乃池 夫木 秋の色ていさや水のも其末かつむ 隆祐

摂津 玉坂
くらまち乃池 山 万葉ニあり

夫木抄
さへ風よ今ハ水よ渡さる池乃おもてハるみそらん 為家

夫木抄 多賀
・こうち乃池 一本滋賀 水鳥

夫木抄
水鳥のさへてとさる池のかへ渡よのこそ流を立なる

河内 鶴亀
かゞみの池 八雲池乃所よ出 夫木抄

大和 劔

はたきの池 一本未勘

万十二 みそきせつるきの池乃堤にしけり行る水のゆくへしらなく 読人不知

山城 并

ならしの池 寺 ゆし 柳 上のし ・月 鷺 ・蛙

夫木 行くは君とならしの池まてもさらにかけつゝ今もきりなむ 読人不知

名寄 きのりの池 鴛鴦 あやめ

未勘 ・わくらはに今そみしるもきのかたきその池にむすひをかまし 読人不知

長居 なかゐの池 一本未勘 浦 うきね 浜日 浮日

未木 とくつるきの長居乃池の水澄て未来よむ代乃影そみえける 読人不知

近江 長沢 ながさはの池 或土佐 詠 あやめ 根

見祉 君か代乃ためしにひく長沢の池乃あやめはけふそひくなる

未勘 何為 なかはしの池 席 おもふ人何はし池のあれまてをと思ひて年の暮なん 読人不知

大和 植 うへ安との池 人丸 おもり

万三 ・うへ安との池乃堤のつらなみの行末とほくたえしと人はいふなる

石見 浮沼 うきぬの池 一本未勘 嘻 うらり 藻 あやめ 鴨 万 菱

後拾 ・身はくそうきぬの池にあやめ草引人もなく根そなかれける

未勘 浮田 ・うきたの池 六音 けふはかて鳴そ杜のうきたの池の蛙なくなり

同 浦樒 ・かくろの池 西京 風吹はさかくろの池のまさなみのよせてかへるの数をしるらん

山城 大沢 おほさはの池 三 ・蛙 五月雨 ・月 ・菊 ・紅葉 ・五柏 ・鴛鴦

玉 菜 ・深きひ ・萍 ・ぶし ・鳥

古今 一本ときけ此菊を大沢乃池の底にたれかうへけむ

菅原 八十一隆 くらまの池 鯉

夫木 おもふ人すゞりの池にすゝしめてくみてそつたふ君かなさけを

肥後 八代
やつしろの池　名寄 いく代ともしらぬ池の水澄て人の心を深くかるらん　西行

大和 益田
ますたの池　ぬなはのくるしかるらん人よりも我そますたのいけるかひなき

あやめ　建 月　氷 月　鴨 冬　鳴　稲むすび 秋　つれ
はちす 夏　蓮も 六　わさて　浦波立つ　里

秋　稲かすへての池ちかみ今も我そ稲こそれいけるかひなき

摂津 真野
まのゝ池　姫 笠 月　蛙　盾　月 十　雁　・氷　芦
菱 万　小さ夏乃ゝ中夏の里　あやめの　橋　蒲の　浦

夏　・酒の池乃中瀧の者とねりとて人のをとくよかへてきつゝのなき
秋 勾
・酒かの池　万三　酒のとやなかの池乃そむらさき人のかへらて床もあるす

佐渡 二見力
ふたみの池　八重池の酒よ出澄寄る末勘

大和 角振
・つのふりの池　一本角折 末勘也
角振乃池の堤はあとたえてこもりくの戸はいかにとれさらん　読人不知
摂津 昆陽
こやの池　蛙　芦　螢　五月雨　あやめ・月
冬　鴨　かも・霜・氷・うつら・雲 芦
のまこも　みさひ　猪名野　芦　野

冬　浦 月　松原 月
・芦こそ茂れけむしのこやの池のみつ人泳かな　信実
夏 いつみて橘の露をかくれ出て二河のかへりの道あれん
紀伊 小
・こ池
津真 小鶴
こつるの池　・ちよとなれ河の夜しろねれ千鳥数をさへてそ出
上野 板
・いたゐの池　一本末勘
名寄 秋風のふかれる滝の雲のそれ池やかなみのそゆかん

大和 てさこひの池 手洗佐比　夫木 わか宿をとはゞ……すてゝ　よみ人しらず

月 あさか乃池 秋　山 六帖にあり

新撰 いかにして……のみ……の池に……　坂上是則

摂津 おにまの池 苔向　・雛・鶯・うつら・見るらん　いつ

新撰 よのなかは……おにまの池乃……　夫木抄……

肥後 あそのゝ池 宮次……　世のなかに……いでて……　後撰

未詳 阿羅布 夫木抄　わくかの池　川上や……の池……　貫之

・月 あさか乃池 梓 六帖　……もさの池……

・月 おほしけ池 籠 夫木　……の池……

・月 あへの池 安芸入 夫木　……の池

大和 さるさはの池 猿沢　……さる沢の池　柳　吉　月……

月 冬　古今 ・月・紅・氷・をし・雪・雲・松・岩 古今にあり

古今 吾妹子が……猿沢乃池の……みる……　人丸

宮家……を……

河内 佐野 はるの池 名 月・あやめ・雪・松・岩

玉葉……氷……鴨……の池

月 佐太 ささの池 一本大和　川 六帖にあり

六帖 秋……乃池……

武蔵 猿山 さるやまの池 池ともいふ　六 むさし……　夫木 をさか

・ますみ ・雪 ・六 こほり 後撰 猿ね……

阿波 佐馬 はくまの池 藤範

六帖 ・むさしなるさるの池乃……秋て見える

夫木
涼しくもなる今きぬをまとれぬちりとのとかにゆさくて波の池　よみ人しらず

伊勢　逆
・はつさ波の池　夫木　何すかくてねりの色をいくてありといふ今さき逆乃池　読人不知

大和　清澄
きよすみの池・河水の年へし波の影聞き清すみの池　家持

豊前　企救
きくの池　万　吾妹子の　菊・月・君・月　氷　万　妻　濱　鳥

・初こほり氷も今はとけすめる君かおもひの池　為家

大和　耳成
みみなしの池　月

万葉
みみなしのいけしうらめしき吾妹子かきつくられてみはなからん　読人不知

月　美作
・みまさかの池　堀川百首　行秋のひかりもさやけき雲の上にすめる月影　為家

備後　三原
みはらの池　一字抄　わちの村鳥　蛙　読人不知

夫木
氷もる池の池乃ほけりともさえぬ水の涼しくぞなき　よみ人しらず

伊勢　参河
みかはの池　拾遺集
こしかたのみかはの池のかきつはた行末よりも今はいかに　読人不知

参河　宮路
みやちの池　山　読人不知

六帖
水ちるけ浦そ石のまよふうきぬ乃池に年は経ぬれと　よみ人しらず

月
緑野
みどりのの池　一字抄・青葉・汀

夫木
まふく風ちかくみどりの池の面にうつるも　和泉

河内　清水
しみづの池　夫木
浮草の池の影しも鏡しみて住む清き清きかな　覚性

武蔵　廣澤
ひろさはの池・月　花　柳・花　杜若・五月雨

荻　雁　月　鷗　菓・苔・氷・ね秋の

・うき草・月さえ・月影・岸の松ヶ枝・汀

六帖　後拾遺
・あすか山　読合

六百番
広沢乃池より出る月影の吹ても乃山をこゆるぞかなしき　兼房

周防　氷室
ひむろの池　夫木
池水も氷室の池のなかまでも吹風に解やしぬらん　よみ人しらず

夫木 ひし乃池　菱　夫木 おく露のひし池なる菱の葉とたえてや妹か袖もぬれなん

大和 すゝきの池　菱田　・杭のし　岸乃柳　杜若　附る

堀 くちきと　六帖 ・くし　鴨　雁　堀 芦　かき　狭衣 海こも

古今 ねなはゝ　千 ・水菜

千載 ゆくすゑのすゝきの池に水草ゐてとふらんやまかね社のまれ　紀実 藤原家隆

○ 堤

八雲 人かはくさかとゆふは堤とよへる所なりと云

まゝ井堤也　・堤ふみ　・堤にて　六帖 ・袖乃堤

万 ・池乃堤にさす柳

大和 堤安 ・よしやさの堤　池 六帖 あり

万一 たふれぬの堤乃よまわりてしみんたてまつれ　上下略

山城 通 いつみの川堤　名寄 たれかもや通の川乃かはけつくしかいよねのみかされ　師光

大和 加留 かる乃池堤　千五 ・螢・名 月・霧・名 氷・万 藻・入江

日 垣津田 古来六入 かきつの池堤 鴨のくる羽音そけしかるの池乃みその堤人やまとくらん　元海

下総 勝間田 かつま田の池堤　万十二 千載 夕されば池の堤乃百てに生たる柳枝よ水枝さす　上下略 定家

和泉 横野 よこのゝ堤　千載 池水乃堤の上にて水はしらすまく紀ノ里かまそらん　郷子

続古今 ここもれの横野ゝ堤風さえて入江遠くも千鳥鳴なり　藤原光俊

山城 井手
うしハの池　千載 これやけ堤のとはさ柳井乃池よ春風そつく 為尹

上野 八坂井堤
・やさかの井て　万葉 いかほろのやさか乃井堤にたつぬしのあらはろまても さねをさねては

大和 猿沢
さるさハの池 堤　秋篠 わきもこか手枕よる猿沢の池の堤や君ハ忘れし さき

摂津 三原
みはらの池 堤　夫木 いひそえてたえそハ絶ぬ行かをのミはらの池の堤ならせん

山城 廣沢
ひろさハの池 堤　風雅 ひろさハの池乃堤の柳かをみとりも深く春雨そふる 為家

○井

玉ー　山ー　石ー　いさーー　板ー　清しー　走ー
ミー　岩つー　朱のうきー　やまとー
いしみつ　・井の底にさる大空　・ちる井のとはさ
うの花　・玉乃井　・いさら井　・井にとむらさ
・三井れ玉の　・我門乃板井の清水　・山鏡本の泉

伊勢 五十鈴三
乃岩井ー　・堰ー　・井つて　いはらー
いそしの三井　五月雨ハ晴るともみぬ山の井のいそし井の清水かな

近江 石
いし井　古今 離別 志賀の山こえにていし井のもとにてものいひける人の別れける折によめる 八
おくの山乃井すゝなり

伊勢 稲
いなり井　金葉 万代のためしにいなり井を掘そめて君か…

日 伊津貝
いつミ井　夫木 …

近江 走
はしり井 一本走井 八
万 落滝津 滝ちりー　・もの…
・しの川瀬　・沙礫　・雲　・旅人　・宝月の影　・道

乃実 後拾

万七 落たきつ井手のきしの…

信濃 垣科石
いしふみれいし井
万古 皆人のこゝろハ絶ともイ
皆人乃こゝろもちふるいし井のてこらまゐ絶なる 壬二

武蔵 堀兼
ほりかねの井 千 むさしのゝ ・六 さみだれ ・同 波乃下草
井つて 忘る

千載
・むさしのゝほりかねの井もあるものをうれしく水の近づきにける 後拾

出羽 常盤
ときはい井
まま やそとせの…常盤井の水はくむる…かつらの… かつらの

伊勢 忍穂
おしほ井 風 一たびもかきさしても…やさく葉ひとつ…

風雅
ともゐ井をくみ水を汲てこそ…かきたえぬ… 成金

伊勢 忘
わすれ井 ・月

玉葉
…わすれ井乃水 甲斐

近江 可尓波多
かにはたの井 万 井法

播磨 亀
かめ井

万水
・あさくおくこゝろのそこにかくすかめ井に…つもる 金葉

新拾 清法 つるの林 ・月

多秋萩とよみ

拾遺 ・玉の井乃水にも

摂津 蔭岩
かげのい井

後拾
・万代をすめる亀井のみやさいとみの小川乃…たえせん 井蛙

新拾
…木かげのいは井は忘るゝ…ぬるる…付道 かの家

和泉 竹原
たけはらの井 坂田山 後拾

新拾 イ
竹原乃…やまかげ…山乃…よのこゝろ 宗良

山城 玉
たまの井 ・山吹 ・鶯 ・月 ・氷 ・松 ・汀 ・みかの原 後拾
いつみ川 日

夫木
…里の…玉の井乃水 家隆

近江 玉
・たま井 里

近江 続拾遺
涼しさハ手にもむすばぬ山の井の水ハ[illegible]乃下陰 [illegible]

近江 玉 泉
さゝなみやけの井 ・忘間のあさきけの井は涼しさに秋と松風そ吹 後成恩

美濃 釜 新花
さめが井 青柳のいとも井水ハいのちの孫と移る影そ見ゆる

筑後 田中 続古今
たなかの井戸 ・蛍 ・蝶 ・稲葉 井す?ら なみのく
続古今
咲にけり苗代水に影見へて田中の井戸乃水さへのよる 前中納言定家

伊勢 都追見
はゝき井 万十四
すゝゐの水のつきぬ水と本人よ[illegible]てよ

備中 長 未木
なかゐ ちはやふるきさらぎ秋去の井ハ水の手よ[illegible]

淡路 奥 古今
・おくの井 秋のおぼろ月をまさしきかれ刈る[illegible]

大和 山 新勅撰
・やまの井 みのはとまつらむすべやたえ家の[illegible]

伊勢 山邊御 未木
やまのべのみ井 ・神風やいせのをとめの衣ほしつゝむすぶかみへの井

近江 山 しの清 新拾遺 続
やまの井 あらも ・霞 ・藤花 ・蛍 ・五月雨 ・秋草

拾玉 新拾 新古 拾枝 風
・萩 ・月 ・老くれ ・水 ・袖乃白玉 ・朱乃唐
新拾 続 続合
・沖浅のみ ・志らの浦
古今
結ふての雫に濁る山乃井のあかでも人よ別ぬるかな 貫之
あまさ本あ[illegible]

淡路
同 古今序
あさか山影さへ見ゆる山の井の浅き心を我おもはなくに
全 続古 同
・岩かの ・五月雨 ・忘水
[illegible]かたかみ[illegible]

下総 真間
ままの井 入江 新和 浦 継橋
夫木 六帖
かつしかのままの井見れば立ならし水汲ましけむ手児奈し思ほゆ

丹波 松 武徳中 新古今
・まつの井 ときはなる松井の水をむすぶ手の雫ごとにぞ千世は見えける 資実

右建久九年大嘗会主基方屏風歌

丹波　増　ゐとゐ井　紀　大宮山

風雅　・涼しさは松陰井の清水にすむまゝにひとつにくむ万代乃秋　隆博

山城　伏見　よこの田井　原　山（歌あり）　野　沢　田　田

新古今　くれ竹のよゝをへ田井のうき世よりたえぬなかれそあはれなりける　後京極

大和　・同　里（歌あり）

新拾遺　明くれは袖にうつれるうきやもとの田井に縮ひきてなかる　正三位季経

未勘　ふる井　或丹波　船　万代の秋とはなれぬ絆井に底さへ清く流れそ　続古今

大和　えのき井　桜葉　・月　それもきこへく

夫木　うつきさくやまらは風ふれは朽ちたる枝の葉井にそ白く移りく　よみ人しらす

未勘　・てら井　寺　万十九　ゆきかよふのやそれいかゝ流まち寺井のいとのなかきなれ花

丹波　あらこの井戸　紫　杜　月　原　蝦　・こえ九・宮（歌あり）

夫木　・あらいさてもあらみん嬉しくあらこの井戸に映る月乃かゝる　橘為仲朝臣

月　飛鳥　あすかの井　風　花　吟　雲　玉　・こゑ・よくと結　・川（歌あり）

催馬楽　あすかの井にやとりはすへしをけかけもよしみもひもさむしみまくさもよし

里　日　都　日　寺　日

陸奥　安積　あさかの山の井　多本（？）かけれ

・あさかの山の井　沢（歌あり）　山　日　里　日

古今　あさか山かけさへ見ゆる山の井のあさき心を我思はなくに　うねめ

未勘　安志姚　・あひの山の井　百七　あひみたる隙の中にて隠れ井の山の井はあかなくに　よみ人しらす

下総　盃　ほつやさの井

新撰　盃よりくえたる水のあをやさの井にかけて　近江　醒

さめか井　旅人は結ひてすゝしさめか井の清水は月

名所
・渡てふ人もありときく代わすれもやらん
紀守
ほりかね井 ・五月雨 蝉 ・雲 かつ 木の下陰
・今もはたほりかねつゝほり井のさゝ見も人よみあさりけり
希
ゆつるその三井 ・河辺
万二
ちよ三寺鳥のゆうかの三井れ上よりもゆくゆく
近江
み井 川の玉の 清水の 寺 三井の 桜 ・月 ・法の
名所
御代の代々わたりて鳴をわたて絶せぬ寺乃
三笠
・みかさの山乃井
そ見えはおもかげみかさの山乃みなもとも神のめぐみ
宮古
こやこ井 宮古井もゆれ新ゆかし水もつらよ成
常陸
志づくの田井 花 尾 早苗

清加
ほり井 大江やし ・五月雨 ・岩
はくてまのかゝてこの気もちも散志津くの田井よ後今も
大江やせうのれかてまれしきるへの花あふひてゆく

○

水

山ー 谷ー 川ー 池ー 沼ー 江ー 玉ー
関ー さわー いさゝ井ー 大ー いてー
トー 若ー あかー みなへー 御ー
ゆりー いとー ふるー しつれー 忘ー
ちとへの なかるー 石のー 清のー 底さへ
底にたまりうらめく ーの中や 沈の文なり うすさ 沈之 いそしー
やりさの夜半あけてむ きよー 秋志のても万葉すら三井
多くの清しさのなり ありしとよめり

忘し いさ井のし あまし いさられし 水のたまり おちうち

よるのし 子細 水え花のし のあと おちおちまた志

あるとふういさらも川といふなあおかしとこ ふく俤

みくまりのてい水まかくれなと 江上八首 し波

はりし ぬきとめのし いてくへし なにしあたのし

しのくまり 名ことそれし こゑれ ・山下

こよみ行のり ・瀬乃ゝお ・おもあり いはせの山より

あり ・岩まりし ・しのまわり ・あさむし ・おれぬ

・あさくへし ・岩ねあさてはし ・山下し ・つんうけ

・あらけ ・こるれ ・松のトし ・松ねのトし ・露ねトし

・しまれ ・水車のはさられし ・しのさはに ・岩まち

通し行し ・岩さりよは山し ・さやけし ・秋乃し

ころれ ・澗さえれし ・石井のぬ河とは堤 ・あまし

・野川し ・しのさくへ ・しえれて ・し箭 ・岩もくくし

・しめる香 ・ところはさくくし ・関し まつ あふ坂よ ・氷の

堤とかろし ・筏のおれゆくし ・ふそしし ・令

乃し ・忘し ・細し ・しのおいと ・いさらほし

・こそれ下のしし ・去年のなやのし ・岩のれし

・まろし ・滝のし ・ぬまし ・沢し ・おめて足

・し草 ・こおきさろ おのた ・しのあ上 ・こおさこ

・うけひれし ・岸ゐほし

いくしあ 石清水 花 ・岸浪 ・桜とかさす ひく 河内の香 ・かきぬれ

・泊瀬 ・月 ・苔 ・神垣 ・杉 ・松浦 神

・菜 神山の菜乃トの ・みむろの神 行きま [illegible]

世すがくてつまるさもとへいかんけるかなれ神乃あらへ

ちりもせし衣にすれるにたゝけの木ゝやへれかさすたゝ 定家

大和 同

神南備山乃し

神南山のうへなる石清水のにごてゝ汲万代乃ちかし 後人大和

近江 同

おほ坂山のし 関の清水 ・木のくま

君か代にあふ坂山乃岩清水のなかるれにおひけるかな

武蔵 逢

ふけの 末本 [illegible]

大和 忘

まよひ乃四沢

常盤野乃沢のし ・かゞる

青みしさ乃の沢乃りとれの何今ちろけかくいかん

朝魚乃し

剣わち汀のくれ手ま乃ゆくかきわりのらか

古椙小野のし

ほろ丸の中らさの家の末み沢へて海るせかし

同 ・夜 ・五月雨

何岩の浦沢とのくりとれ乃へさるへて流るゝ

同

浅茅ちよいし 岩ちよいし 木の

あ沢のし 昭らけ沢のし 水晶浦のし 小田

乃し 山の井れし 松井れし 五月雨 雲 月

秀 落葉 冬草 苺 小田

摂津 垂水 たるみ 万 岩そゝく 万 石ばしる 六 わか草
万 早蕨 ・たるみの森 ・千本 紀涼 月 氷 社 古今あり
万十二 石ばしるたるみの水のはしきやし君にこふらく我こゝろから
摂津 玉出 なにはての水 難波寺亀井の水し
続拾 さゞなみや出のみやこにしづく清水のすゑはかはらし 新古今
大和 貴向清 よるべの水 古来 よるべの水の清き流れて
後撰 ・波 古今 ・雨 ・川 ・里 ・中道
大和 井手ノ玉 かはづなく 新古今 井手の玉水
摂津 野中清 のなかのしみづ 続古今
三輪山の清水のこゝろよはりて
青林良材 野中の清水は
これをもろこしのくまのゝ国古跡よい歌中の
清水への糸をいふにより ・玉藻の
続拾 ・夏草 古今 女郎花 ・月 ・君 ・氷室 とく
古今 古の野中の清水ぬるけれどもとの心をしる人ぞ汲む
紀伊 同
わきてまた古の野中にいはれり
名寄 岩代の野中に立てる結び松心もとけずむかしおもへば 続古
武蔵 朧清 おぼろのしみづ 落花 螢 ・月
・氷 ・夏 八重の
千載 水むすぶ朧の清水底すみて心に月のかげはうかぶや
山城 増井 ますゐの水
近江 三井清 三井の清水 寺 古来あり

印南野 イ十三

近江 新葉 湯るかと世を祈り過ぎし三井の清水に添そありより 仁誉

ちりかゐの 清和井 千本 五月雨

六帖 大原やせりのかはのそこは涼しくてうつりはなく衣かへてゆくん

近江 関清 ちりかのしの 関清水 落花 月 七夕 氷 杉

拾玉 ちゝ月細

雲葉 ・金沢のゐのくなかてはうねお坂の関路しる人にあるはさかる哉 忠見

○温泉 いゆ いてゆ

伊豆 犬飼郡 いぬかひのゝ湯 ・集名鶴 雪 名所あり

拾遺 とのゝかみなひるてうかくとていぬかいのゆるはすまりなりかり 湊公知

伊予 伊予 いよの湯

六帖 いよのゆのゆけたらはいくつあたおや右は九中八十六

伊豆 走 ・はしり湯 拾遺 海らく波のうへゆ湯に出て今の名や叙ぶやまず

伊豆 同 王 いつの山乃あまはゆ はしりのゆ

にはかて出る湯

夫木 あつ山の神くハむかしいくしあれやはかけハなかりけり 源仲実

上総 勝間田郡 かまたの湯

夫木 けふの夜は涼しさまさるかまたの湯なかそかみ 忠見

信濃 筑摩 つかまの湯 一の湯 云名

夫木 まつらひてをきよふ人はつかまのゆるかつの煙り 源仲正

同 那須郡 なすの湯

弘長 あはれなるなすの湯もむさかれぬも病やむらく

同 七久里 なゝくりの湯

拾 いかにせんみつのなかにそ出る泉乃涼しからん 基俊

陸奥 名取郡 なとりの湯

拾 ・おしあけたる通路乃てかるそのゆけは

摂津 有馬 ありまのいで湯 ・名所あり ・五月雨

千載
ゆきゝにきぬをみての袖ぬれし志ほゝわけまれ出湯なりけり　資賢

相模
あしからの湯　八雲温泉乃内證有未勘

陸奥
さはこの湯　佐波古郷　一本未勘抄
あかすして別れし人の行里ハさはこのみゆる山乃あなたか　読人しらす

紀伊
みくまのゝ湯　三熊野　浦　京和　おり　浜　日　宮　日

名寄
こくはのゆゝろの流れさす棹乃ひろひかねかくていふらむ　よう

信濃　同
志なのゝ湯　八雲温泉乃内證有未勘

未勘
志まのゝ湯　鳩根郷

堀川百首
哀さしゆにて下ゆて夫ハ子けまた志まのゝ湯の名ハ絶るともなし　隆仲

第 6559 号
昭36. 3. 14